

2023年12月23日(土) クリスマス・イヴ礼拝説教

『力を捨てよ、知れ。わたしは神』井上隆晶牧師
ルカ福音書2章6～7節

クリスマスおめでとうございます。今年を振り返るとはロシアとウクライナの戦争、イスラエルとパレスチナの戦争、世界規模の異常気象や災害など、大変な一年でした。それはまだ続いています。一日も早く戦争が終わるように、また世界中の人たちの命が大切にされることを祈ります。

①【あなたも神の国の住民登録に動きなさい】

さて『その時、歴史が動いた』というNHKの報道番組がありますが、イエス様がこの世に生まれた時も歴史が大きく変わる瞬間でした。実際、キリストの誕生を境にして西暦は紀元前と紀元後に分かれます。紀元後をラテン語でAD(アンノドミニネ)と書きますが、「主キリストの年」という意味です。BCは「before Christ」の略で「キリスト以前」という意味です。又歴史を英語で「HISTORY」といいますが、「HIS」と「STORY」が重なったもので、歴史とは彼、つまり神の物語だと言った人もいます。

イエス様がこの世に生まれた時、イスラエルの国はローマ帝国の支配下にありました。皇帝アウグストゥスは自分の領土の全住民に住民登録をするように命令を出しました。支配した国から税金を取り、徴兵するためです。住民登録は本籍地で行われ、名前、職業、財産、親族などを登録しました。この時、今までにない国民の大移動が行われました。その旅人だらけの中を身重の妻マリアを連れて、ヨセフは自分の故郷であるベツレヘムに旅をしました。彼らが住んでいたナザレからベツレヘムまで150kmと言われていました。今のように道路が整備されておらず、宿屋もそうなかったでしょうから、野宿しながら5日～6日くらいかかったのではないのでしょうか。クリスマスは旅をする人でいっぱいだったのです。このことは何を教えようとしているのでしょうか。

ここには「登録」という言葉が4回も出てきます(1、2、3、5節)これは旧約聖書の中に預言されていました。「主は諸国の民を数え書き記される。」(詩編87:6)地上の王が住民登録を命じた時、天の神様も天国への住民登録を命じられたのです。キリストの誕生と共に、この世に神の国が始まったからです。しかしほとんどの人が彼の国に向かって動こうとしませんでした。ヨハネはこう書いています。「言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。」(ヨハネ1:12)天国に登録するために旅だったのは、わずかな羊飼いと東方の学者だけでした。しかしイエス様は今も「あなたもぶどう園(天国の事)に行きなさい」(マタイ20:4)と言って人々をご自分の国に誘っているのです。この時期、あなたも本当の故郷である天の国に旅立ちなさいと言われていたのではないのでしょうか。

②【宿屋には居場所がなかった】

ベツレヘムの町に着いた時、マリアは月が満ちて赤ちゃんが生まれそうになりました。しかし宿屋は旅人でいっぱい、誰も代わってくれる人はいませんでした。「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」(ルカ 2:7) のです。そこで彼らは町の郊外にある家畜小屋に行き、そこでイエス様を産みました。「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた」(ルカ 2:7) と書いてあります。生まれたばかりのイエス様が寝かされたのは不潔な飼い葉桶でした。この宿屋というのは「今の世界」のひな型だと思いませんか？強い者、豊かな者が占拠し、弱い者は隅に追いやられます。昔だけでなく、今もこの世に生きる全ての人が、恐れを持ち、奪い合い、競争し合って生きています。皆が犠牲者であり、同時に加害者です。これがこの世です。人間はこの世から弱い人と神を追い出したのです。

●ある TV ニュースで今回のイスラエルとハマスの戦争の事をこんな風に伝えていました。「アメリカやヨーロッパ諸国はユダヤ人を迫害したという贖罪意識から、また裕福なユダヤ層からの支持を求めてイスラエルを支援していますが、そのアメリカの中でも有名な大学の学生たちや、若者たちが『反イスラエル』のデモをするようになりました。彼らは歴史を学んだ上で、やはり今までのイスラエルやアメリカのやり方は正義ではないと気がついて声を上げ始めているのです。」

いくらユダヤ教徒やキリスト教徒になっても、神を信じていると言いながら神に頼らず、軍事力と富に頼って生きているなら本当に信者といえるのでしょうか？そこには正義はありません。結局は神を利用しているに過ぎないからです。ヤコブはこう書いています。「あなたがたは、欲しても得られず、人を殺します。また、熱望しても手に入れることが出来ず、争ったり戦ったりします。得られないのは、願い求めないからで、願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で願い求めるからです。」(ヤコブ 4:2) 世の中は昔も今も変わらないと思います。

③【神の国とはキリストであること】

イスラエルは聖書の神の約束だからといって、武力をもって土地をパレスチナ人から奪い取ろうとしています。しかし「神の国」というのは軍事力や富の力で地上に作るものではありません。旧統一協会は地上に「神の国」を造ると言い、靈感商法で人を騙して集めた大金で南米の土地を買い占め「神の国ができた」と言いました。カルト宗教は、地上を目的としています。しかしキリスト教とは本来、天を目的とするものであり、地上の物に執着せず、それを手離すように勧めています。「世の友になりたいと願う人はだれでも、神の敵になるのです。」(ヤコブ 4:4) これらはすべて「神の国」理解の違いから生じてくるものです。

キリストは「神の国は、見える形では来ない。ここにある、あそこにある、と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」(ルカ 17:20~21) と言われました。実は「神の国」とはキリストご自身の事なのです。キリストがあ

あなたの中におられれば、あなたの心の中が神の国になるのです。キリストが中にいるとは、完全な愛、永遠の命、赦し、光、希望、真理、医者が中におられるということです。最高のお客様です。私たちが何かを失うのではなく逆に豊かにされるのです。だからイエス様が中におられる人は喜びに満たされるでしょう。

飼葉桶は貧しさと弱さと小ささの象徴です。しかしどんなに小さくても、貧しくても、弱くても、その中にキリストが住んで下されば、そこが神の国になるのです。逆にどんなに大きくて、豊かで、強くてもその中にキリストが住んでおられなければ神の国ではないのです。キリストから離れたら、教会も国家も土地も神の国ではなくなります。

●今年には熊取教会の濱田牧師夫妻と知り合いました。お連れ合い様は今、現役の牧師ですが、夫の辰雄先生は隠退されています。先日も JR 環状線の同じ車両で濱田辰雄先生とばったり出会いました。辰雄先生は、ずっと私に「熊取おじさんの日記」を送って下さいます。ペンネームは「浅、広、薄」といいます。その日記はいつも「おじさんは…」で始まり、今回は「クリスマスだと言うのに、おじさんは本の話ばかりしているのです。」で始まりました。そしていつも、手紙に「くだらんものを送ります。どうぞゴミ箱に捨てて下さい」と書いてあるのです。今回も一生懸命読んだのですが、昔の人の本の話ばかりでした。でもその「クリスマスだと言うのに、おじさんは…」という言葉にすごく癒されたのです。肩の力が抜けていて、飾らなくていいなあと思います。

「力を捨てよ、知れ。わたしは神。」(詩編 46 : 11)という言葉があります。神を信じる者、本物の愛に愛された者は、力が抜け、飾らず、安心して委ねられる人になるのではないのでしょうか。力が入っている人は疲れますし、何か自我の匂いがして無理があるように感じます。どうかキリストに愛され、肩の力を抜いた信仰生活をしてゆきたいと思います。